

2023年5月18日

東洋製罐グループホールディングス株式会社

日本製紙株式会社

G7広島サミット国際メディアセンター（IMC）で 紙コップリサイクルを実証実験

～サーキュラーエコノミーの実現に向けてカップ洗浄機「Re-CUP WASHER^{リ カップ ウォッシャー}」を活用～

東洋製罐グループホールディングス株式会社の連結子会社である東罐興業株式会社（以下「東罐興業」）と日本製紙株式会社（以下「日本製紙」）は、G7広島サミットの開催に合わせて開設される国際メディアセンター（以下「IMC」、2023年5月18日～22日開設）内において、使用済み紙コップのリサイクルに向けた分別回収の実証実験を行います。具体的には、日本製紙が間伐材を原材料に製造した紙コップ原紙をもとに、東罐興業が生産した紙コップ「エコフレンドリーカップ」を試飲用コップとして IMC 内で提供、使用された紙コップを東罐興業開発のカップ洗浄機「Re-CUP WASHER（リカップウォッシャー）」で洗浄の上、回収し、日本製紙が段ボール原紙にリサイクルします。

「Re-CUP WASHER」は、生活者のリサイクルへの意識を高め、積極的にリサイクルに参加するという行動変容を促し、使用済み紙コップを「廃棄物」から「循環資源」へと転換するための“装置”です。使用済み紙コップは、通常、飲み残しや汚れなどの残渣があるために、廃棄物（可燃ごみ）となりますが、「Re-CUP WASHER」により、利用者自身が「洗う」というワンアクションを行うことで、「廃棄物」から「再生資源」に生まれ変わります。今回の取り組みは、使用済み紙コップを再び紙コップへリサイクルする「CUP TO CUP Recycling System」の構築を見据えたものです。



東罐興業では、「Re-CUP WASHER」を利用した「CUP TO CUP Recycling System」のしくみにより、紙コップを再資源化してリサイクルカップにつなげる取り組みを進めています。

- ・本取り組みの概要に関する紹介動画（広島県環境ブースにおいて放映）

https://youtu.be/13YQIaE_NiE

東罐興業は、IMC 内における実証実験に関する展示に加え、同センター内の広島県環境ブースおよびクリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス (CLOMA) ※のブースで実施する「CUP TO CUP のしくみ」に関するパネル展示を通じて、使用済み紙コップのリサイクルについて啓発活動を行います。

東洋製罐グループの中長期環境目標である「Eco Action Plan 2030」で、資源循環社会に向けた目標として掲げる「全ての容器包装製品をリサイクル可能またはリユース可能に」に沿って、これからもサーキュラーエコノミーの実現に貢献していきます。

※クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス (CLOMA)

地球環境の新たな課題である海洋プラスチックごみの問題解決に向け、業種を超えた幅広い関係者の連携を強めイノベーションを加速するためのプラットフォームとして 2019 年 1 月に設立された団体。



(「Re-CUP WASHER」で紙コップを洗浄している様子)



(原材料に間伐材を利用した紙コップ「エコフレンドリーカップ」)

日本製紙は、「木とともに未来を拓く総合バイオマス企業」として、再生可能な資源である「木」を最大限活用する技術と、優秀な循環資源である「紙」を再資源化するリサイクル技術を合わせて展開することにより、木質資源を基盤とする資源循環を推進していきます。

東洋製罐グループは、社会や地球環境について長期的な視点で考え、すべてのステークホルダーの皆さまに提供する価値が最大化するよう、2050 年を見据えた「長期経営ビジョン 2050『未来をつつむ』」を 2021 年 5 月に策定しました。当社グループの目指す姿・ありたい姿を「世界中のあらゆる人びとを安心・安全・豊かさでつつむ『くらしのプラットフォーム』」と位置づけ、「多様性が受け入れられ、一人ひとりがより自分らしく生活できる社会の実現」「地球環境に負荷を与えずに、人々の幸せなくらしがずっと未来へ受け継がれる社会の実現」を目指し、事業活動を推進していきます。

■本リリースに関するお問い合わせ先

東洋製罐グループホールディングス株式会社

サステナビリティ推進部 コーポレートコミュニケーショングループ 中野利・矢澤

TEL : 03-4514-2026 Mail : tskg_contact@tskg-hd.com

日本製紙株式会社

広報室 新井・余西

TEL : 03-6665-1016 Mail : pr@nipponpapergroup.com